

今年最初の安息日学校ファミリータイムは、「新年の挨拶」を行いました。8つのファミリーグループに分かれて、新年の抱負を一人一人に述べていただき分かち合いました。小学生からは勉強を頑張るや学校に休まずに行くなどの目標が聞かれ、大人の方からは聖書通読や健康第一などの目標を聞くことができました。

教会は様々な年代が集まり語り合うことができる場所です。現代の社会においてこのよ

うな場所は希少となっているのではないのでしょうか。

「あなたがたはキリストの体であり、また、一人一人はその部分です。」

コリントの信徒への手紙Ⅰ 12章27節

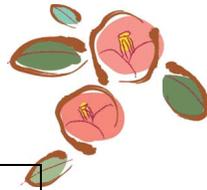
亀甲山教会の一人一人は、主の愛によって結ばれている家族です。世代を超えて共に祈り合い、互いの信仰を深めていく1年でありたいと思います。

安息日学校副校長 竹山智久

祈りの10日間を終えて

教会では1月17日から「祈りの十日間」を実施しました。今回の「祈りの十日間」は新年を迎え、新たに聖霊の注ぎを祈り求めるものでした。祈禱会や幾つかの集会はともかく

も、基本的には各家庭で祈り合った十日間でした。キリストにつながることの大切さを改めて学んだことでした。



2月の礼拝担当

日付	会堂	ジュニア	シャローム横浜
7日	東海林正樹	合同	白石 尚
14日	山地 宏	落合 均	安河内壽
21日	東海林正樹	合同	村本英邦
28日	小学生（祈禱週）	合同	寺内三一

Laforet ラフォーレ

第25巻 1月号 2015年1月5日発行
 亀甲山教会広報係 発行人 東海林正樹
 セブンスデー・アドベンチスト亀甲山キリスト教会

後の雨の特別な聖霊の注ぎと
 宣教のためのリバイバルと改革を求めて
 「777の祈り」に参加しましょう

- 7 世界中のセブンスデー・アドベンチストが
- 7 週7日間(毎日)
- 7 朝または夕の7時に祈る

L a f o r e t

「バレンタイン・デー」

亀甲山教会牧師・東海林正樹

2月14日はバレンタインデーです。チョコレートをプレゼントすることで自分の気持ちを相手に伝えるバレンタインデーの習わしは、日本でもすっかり定着したようです。友達同士の挨拶風なものから、女性から男性へのかかなり真剣な愛の告白らしきもの、更には夫婦間の労りと感謝を込めたもの、あるいは又、感謝の気持ちやコミュニケーションの円滑化を目的とした義理チョコなども含めて、バレンタインデーに交わされるプレゼントのありさまから、様々な人間模様が浮かび上がってきそうです。

ところで、バレンタインデーにはどのようないわれがあるか、ご存知でしょうか。伝えられている記録によれば、聖バレンタインは3世紀の人で、愛の聖人と呼ばれた人でした。彼は熱心なクリスチャンで、神様に全てを捧げたいとの思いから修道僧になりました。そして、毎日聖書を学び、祈りを捧げ、神様のために一生懸命働いたということです。

その修道院で、修道僧達はそれぞれ音楽や絵、彫刻、模写など、自分の得意な学びをし、求道の生活をしていたのですが、彼には何一つ秀でたものがありません。彼はそのことで悩みましたが、神様にお祈りして「自分の出来ることをしよう」と決心したのでした。自分の出来ること—それは人々への愛の言葉を贈ることでした。こうしてバレンタインは、喜んでいる人を祝福し、悲しんでいる人を慰め、悩んでいる

人を励ます愛の言葉を、来る日も来る日も贈り続けたのでした。そして、次第に彼は「愛を伝える人」として広く知られるようになったのでした。

そのバレンタインの殉教の日を記念し、2月14日を聖バレンタインデーとして、その生涯を讃え、彼の生き方にならって「愛の言葉」を贈り合うようになったのです。バレンタインデーに何故チョコレートを贈るようになったのかについては不明ですが、その本来の意味は、女性から男性への愛の告白というよりは、寧ろ、もっと広い意味での愛を伝えるということだったのです。ですから、私たちが少しでも誰かを慰め、励ます愛の言葉を贈る人になっていこうとすることが、バレンタインの意に添ったことではないかと思えます。

「渴いた喉に冷たい水、遠い地からの良い便り」(箴言25章25節)とありますが、思いがけない時にももらった便りに、目頭が熱くなり、心があたためられた経験は誰にでもあると思います。また、誰かのちょっとした言葉に慰められ励まされた経験をお持ちの方もいらっしゃるでしょう。

聖書の中には「何事でも、人々からしてほしいと望むことは人々にもそのとおりにせよ」(マタイによる福音書7章12節)という言葉が記されていますが、私たちの小さな心がけが誰かの励ましとなり、少しでも「愛を伝える人」になっていくことができれば幸いです。

目指す教会の姿

1月17日の安息日学校の長老会紹介の時間で、「希望の讃美歌」436番「キリストは来たりたもう」を長老の皆さんで歌わせてもらいました。この讃美歌は私の好きな讃美歌の一つで、曲も好きですが、それ以上に歌詞が大好きです。それは私たちの教会の目指す姿を歌っていると思うからです。もう一度ご紹介しましょう。



1.キリストは来たりたもう
これぞわが希望
み言葉を信じつつ
ともに待ち望む
すべての民よ よろこびうたえ
救いの君を ハレルヤうたえ
キリストは来たりたもう
これぞわが希望

2.キリストの愛により

われら主の家族
神の国望みつつ
ともに主に仕えん
信仰 希望 愛に結ばれ
こころを合わせ ハレルヤうたえ
キリストの愛により
われら主の家族



いかがですか。

この歌詞の中に、亀甲山教会のミッションステートメントが含まれているとは思いません

んか。

1節では、み言葉の中にある大いなる希望——救い主なるイエス様のご再臨を信じていること、

2節では、キリストの愛に結ばれ、私たちは一つの家族なのだ、と歌い上げています。

このような教会の姿（キリストにある希望に溢れ、キリストの愛に結ばれた家族のような教会）が出来たとき、「あなたがたに新しい掟を与える。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。互いに愛し合うならば、それによってあなたがたの弟子であることを皆（世の人々）が知ることになる」（ヨハネ 13：34、35）が成就し、世の人々に対する実りのある宣教となるのではないのでしょうか。

「彼らはキリストを説き、キリストを通して神に祈りをささげていたのだから、異教徒が彼らをクリスチャンと呼んだのも当然であろう…」(希望への光 1415 ページ)とされています。長老会は教会の目標である「祈り、宣教する教会」を目指して皆さんと共に力を合わせて奉仕していきたいと祈っています。

これからも各長老のためにご加祷くださいますようお願いいたします。

第1長老 有吉康二

新年の抱負

私の今年の抱負は二つあります。一つは、「神様と共に歩むこと」です。これは今年の抱負というよりは、毎年の抱負です。これについては、村上良夫先生が「王とわたしと主の祈り」に書かれた言葉、「神様が示してくださる道を、終わりまで神様と共に歩み続けることこそ、人間にとっていちばんの幸いではないでしょうか。」が好きです。

もう一つの抱負の話に入る前に、あるエピソードを紹介させて下さい。

シンガポールにある有名な動物園についてのお話です。このモットーは、「動物をできるだけ自然に近い状態におく」事なのですが、私が一番驚いたのは、餌の与え方です。普通は、食べやすい形で与えるのですが、ここではなんと食べにくい形で与えるのです。例えば、猿の場合、好きな葉がついている枝に、好きでない枝も一緒に混ぜて、木に吊るします。すると猿は自分の好きな枝を選んで食べるのです。何故、こんなことをするのか？その答えが興味深いものでした。

「世界中の動物園の動物は死ぬほど退屈している。だから食べる努力をさせて、刺激を与える。この方が健康によい。」

人間にとっても、もちろん刺激（生きがい）は必要です。そこで去年の夏からギター教室に通っています。まだ初心者もいいところですが、今年中に何か一曲弾けるようになりたい。これが今年の抱負です。「愛のロマンス」、「アデリータ」、「主よ人の望みの喜びよ」など名曲がいっぱいです。

内藤威敏

新しい年がスタートし、早半月が経ちました。今年もよろしく願いいたします。

先週からジュニアチャーチも本格的に活動が始まっています。土曜日の教会出席は登校日としてご理解いただいておりますが、教会で行いますので教会の協力をいただいて活動を行っています。ジュニアチャーチの役員の中には教師以外に教会員の方もいらっしゃいます。

先週の安息日学校は、ファミリータイムという企画で、教会員の方にもファミリーに入ってもらって、一人一人が今年の抱負を話す時間を持ちました。毎週の教会出席で、教会の方々と交わる時間は貴重な経験だと思います。

ある児童から年賀状をもらいましたが、そこには教会の前で本人が映っている写真が載っていて、つぎのようなコメントが書かれていました。

「わたしの好きな場所でとった写真です。」
教会が、好きな場所になってくれていることを嬉しく思いました。

ジュニアチャーチのテーマは引き続いて「イエス様の弟子になろう」です。イエス様のことをさらに深く学び、教会が大好きな子どもたちになってほしいと願っています。引き続き、保護者の皆様のご理解とご協力をよろしく願いいたします。

横浜三育小学校校長 落合 均

新しい年を迎え、教会も新しい年度となりました。

ここから2年間、ジュニアチャーチの役員として奉仕するようにと、メンバーも改めて選出されました。子どもたちが毎週、楽しく教会に来て、ますますイエス様が大好きになるように、精一杯努めていきたいと思っています。どうぞよろしく願いいたします。